

「伝統文化レク」開発

思い出話盛んに全国92のデイで導入

ヒューマンライフケア（東京都新宿区）では、「日本の伝統文化」をテーマとした本格志向のレクリエーションプログラムを独自開発し、全国91ヵ所にある同社直営のデイサービスや小規模多機能の一部で導入。季節のテーマに沿った「創作レク」を毎月実施し、利用者の満足度向上やデイのブランド構築などに繋げている。



ヒューマンライフケア
瀬戸口信也社長

「職員は日々のケアに追われながらレクのプログラムを考案・準備・実行するため、内容や質は施設ごとにばらつきがありました。

ご利用者の満足度を向

上させ、職員負担も軽減できるなど、様々な良い効果が生まれるレクにしたいと考えました（瀬戸口信也社長）

そこで、利用者それぞれの体験を思い起こす機会として「伝統文化」を取り入れた創作レクを今年1月に開始

した。

「飾り羽子板」や「武将兜」、「行燈」などの作品を作ることができ、キットには、木や和紙、布といった素材を取り入れていたため、仕上がりも本格的だ。このキットは、グループ会社で多様な講座を手掛けるヒューマンア

職員負担軽減にも寄与



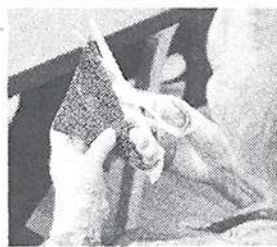
▲「武将兜」の作り方をレクチャーする清水瑠璃チーフトレーナー

カデミー（同）の「日本伝統文化インストラクター養成講座」の講師と協力してテーマを設定し、デザイン・作成された。同時に講師による職員向け映像教材も制作。職員はこれですべてに学び、レクに取り組む。

レクではまず、創作の手順を職員が説明。利用者には手順を思い

出しながら取り組んでもらう。手指を動かしたり、素材を感じたり、昔を思い出したりすることで、脳の活性化や認知症予防などの効果も見込んでいる。

この「伝統文化レク」を通じて、これまでは受け身で半ば遠慮がちだった利用者が「昔はこうだった」「こうやって作るのよ」と積極的



◀兜には友禅の紙を使用

に自己発信するようになった例もある。これまでに、他利用者や職員とのコミュニケーションの活性化、社会性の回復、心の安心につながる、などの効果が見られたという。

「自身が生きてきた世代の文化を次世代に伝えるという役割の創出から、コミュニケー

ションによるご利用者の心身の状況把握にも寄与すると考えています。あわせてデイのブランド構築も目指します」